

## 若者の奈良弁使用について

3年1組32番 矢本灯里

Keyword: 「関西弁」「方言」「異文化理解」「日本文化」「言語」

## 1. はじめに

私は、奈良の方言について探究を行った。私は小さい頃から言語に興味関心を持っていた。様々な体系の言語に触れたいと考え、高校での第二外国語の学習の他に、探究活動でも言語について探究しようと考えた。そこで私は、地元の方言である「関西弁」に着目した。はじめは「方言学習」について探究するため、関西弁の語彙や文法を調べていた。しかし調査していると、「関西弁」と呼ばれることばの範囲が広く、一意に関西弁と括するには小分類が多すぎることに気がついた。また、三重県や滋賀県などに住む人による「地元の方言がエセ関西弁と間違えられ、悲しかった」という経験談も散見された。<sup>\*1</sup>

近年、世界中で少数言語や方言の存在も脅かされている<sup>\*2</sup>なか、「関西弁」と括られて影を潜める小分類的方言に目を向けることが重要であると考えた。

## 2. 序論

上記で述べたきっかけより、検討の対象を関西弁からさらに的を絞り、地元である奈良の方言の知名度を上げることを目的として探究を開始した。奈良県は、大阪府や京都府と同じ「京阪式アクセント」を持ちながら独自の語彙などを発展させてきた。しかし、大都市である大阪府や京都府と隣接していることで、共通した通勤・通学圏としての人的交流の多さから、方言が同化しやすいと推察している。村中(2016)の先行研究によると、大阪では主に「～ン」「～ヘン」という否定辞が使われているが、大阪の若者の間で、奈良などで特有の「～～やん」という否定辞も使われ始めているということがわかる。このように、語彙や文法が大阪弁と同化しつつあるということが示唆されている。

## 3. 本論

はじめに、同年代の奈良弁使用意識について調査した。私は出生時から奈良県に住み続ける奈良県民であるが、普段話す言葉は「関西弁」であると認識している。個人的には、移動が容易になったことで奈良のことばは大阪弁とほぼ同化し、今は高齢者しか使っていないのではないかと感じているからだ。これを確かめるためにアンケートを実施した。まず、クラスメイト34名を対象にアンケートを実施し、27名からの回答を得た。質問内容は、出身地や話せる方言等を尋ねた。質問①「出身地」には、回答者27名中21名が「奈良県」と回答した。そのうち18名が、質問②「話せる方言」で「関西弁」等と回答し、「奈良」「奈良弁」という回答は2件のみであった。

① 出身地	② 話せる方言を全て答えてください。
奈良県	中国語、イギリス英語、関西弁、奈良弁
奈良県	関西弁
奈良県	関西弁
奈良県	関西弁、九州弁
奈良県	関西、下関
奈良県	関西弁
奈良県	関西弁
奈良県	中和方言、京都言葉
奈良県	関西弁 標準語
奈良県	関西弁、北海道弁
奈良県	関西弁、伊予弁
奈良県	奈良 大阪弁
奈良県	関西弁
奈良県	標準語
奈良県	関西弁、標準語、少し沖縄弁

赤いハイライトが「奈良」「奈良弁」、黄色いハイライトが「関西」「関西弁」を表している。今回の調査より、出身地が奈良県である高校生の言語的な自認においては「関西弁」が多数を占めており、また「関西弁」や「大阪弁」と、「奈良弁」と区別をしている人も少数である。このことから、10代の「奈良弁」に対する意識は薄いものであり、大阪弁と奈良弁は言語的にも心理的にも同化が進んでいるということが分かった。

#### 4. 結論

調査からは、奈良県北部に住む高校生の多くが、「奈良弁」ではなく「関西弁」を話すという認識をしていることが窺えた。

奈良弁や奈良方言を使っているという認識が薄れているという結果により、関西弁という大分類への方言の同化はますます進み、広めるどころか、奈良弁という奈良の文化がいずれなくなってしまうのではないかという問題が表出した。

課題として、テーマ決定までに時間がかかったことが原因で、成果物を制作・発表できなかった。今後は個人的に、祖父母への聞き取り調査などから、地元である奈良や、その周辺地域の方言について広めるための知見をより深め、成果物の発表に繋げたいと感じている。

#### 5. おわりに

探究活動において、最も重要なことは「行動」「実践」であるということを学んだ。探究活動や卒論作成を通して、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」の精神を心に刻んだ。先に待ち構える大学での研究も、この心持ちで探究していきたいと思う。

#### 6. 参考文献・出典

\*<sup>1</sup>奈良ひさぎ.『エセ関西弁』を使ってほしくなくて。』『小説家になろう』.

<https://novelcom.syosetu.com/impression/list/nocode/1159781/> .2019年8月2日

\*<sup>2</sup>Moseley, C., & Nicolas, A. (2010). *Atlas of the world's languages in danger*. UNESCO.

[https://unesdoc.unesco.org/in/rest/annotationSVC/DownloadWatermarkedAttachment/attach\\_import\\_70c069f5-be69-478d-80ca-47a6ce68c154?\\_=187026eng.pdf&to=222&from=1](https://unesdoc.unesco.org/in/rest/annotationSVC/DownloadWatermarkedAttachment/attach_import_70c069f5-be69-478d-80ca-47a6ce68c154?_=187026eng.pdf&to=222&from=1)

村中淑子(2016).「大阪・奈良の方言における否定辞について—世代差を中心に—」『人間文化研究』1, 3-27. <https://stars.repo.nii.ac.jp/records/186>